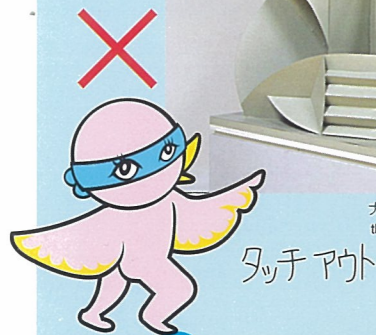




# 兵庫県立美術館からのお願い



ナウム・ガボ <構成された頭部No.2>  
the works of Naum Gabo © Nina Williams



1 ならべてある作品(絵やちょうこく)にさわらないように。作品はみんなのだからもの。よごしたりこわしたりしたらたいへんだ。

## 1 見学のねらいを明確に

ねらいをはっきりもって、美術鑑賞に取り組ませてください。

## 2 美術館でのマナーの指導をお願いします。

美術館には、未来に継承していく文化財である貴重な美術作品が展示されています。児童・生徒の見学・鑑賞が安全で気持ちの良いものになるように、以下の点をご指導ください。

- ① 作品にふれないで見よう。(15cm以上はなれよう。)
- ② 走ったり、あばれたりしないで静かにゆっくり見よう。
- ③ 大声をださないようにして見よう。
- ④ 知りたいことはどんどん美術館の人にたずねてみよう。

### 注意

- 字や絵をかくときは、バイナダーや下敷きをして、えんぴつか色えんぴつを使おう。(ペン類・消しゴムは不可)
- 壁にもたれてかいたり、ソファを机がわりにしてかかないようにしよう。

## 3 児童・生徒といっしょに展示室へ

鑑賞指導されない場合でも、展示室内での児童・生徒の様子を見ていただくために、児童・生徒とともに展示室へご入場ください。なお、分散学習で引率の先生がいらっしゃらない場合は、この限りではありません。

## 4 引率される先生方へ

美術鑑賞は堅苦しいものではなく、心が解放される楽しい活動です。先生方で自身が、作品に接する本当の楽しさを、子どもたちとともに新鮮な気持ちで味わってください。そして、子どもたちがより積極的に作品に働きかけ、充実した活動となるよう、指導にあたっては次の点にご留意ください。



2 へやの中で走ったり、あばれたりしないように。作品やほかの人にぶつかることあぶないよ。

## ① 子どもとともに作品を楽しむ

子どもたちは「先生の意見は正しい」と思います。さきさきと感想を言ったり、「よくわからない」と否定したりするのではなく、子どもたちの感じ方に共感しながら鑑賞してください。

## ② 語り合うことで体験を深める

じっくり作品に向かい、互いに率直な感想を述べ合うことで、作品に対する思いや理解は深まります。そうした声は、不思議と気にならないものです。他の来館者に迷惑にならない範囲で、おおいに語り合ってください。

## ③ なぜ、何のためのマナーなのか

鑑賞のマナーとは形式的なものではなく、作品を大切にしたい気持ちや、作品を心から楽しもうとする姿勢とむすびついたものです。作品を破損するおそれのある行為や、他の来館者の迷惑になる行為には、「なぜいけないのか」をよく理解させるよう指導してください。

## ④ きっかけをつかめない子どもには

作品をどのように見てよいかわからない子どもや、飽きてきた子どもには、先生方の疑問をぶつけてみるなどして、作品を楽しむきっかけをつくっていくことをお勧めします。



3 大きな声でしゃべったり、わめいたりしないように。しずかに作品を見たいお客さんもいるからね。小さな声でおはなししましょう。

## 5 事前打合せや情報交換が当日の見学をより充実したものにします。

来館にあたって、当館職員やミュージアム・ボランティアがどんなことをどのようにお手伝いするのか、事前の打合せ等の際に確認し合いたいと思います。事前打合せについては兵庫県立美術館・団体受付係(教育支援・事業グループ)にご連絡ください。



4 しらないことはどんどんどびじゅつかんの人にきこう。なんでもおしえてくれるよ。